



ゆんたく 都島

2015 Vol.23

Contents

理事長 巻頭MESSAGE

特集: 都島友の会 法人としての取り組み

リクルートへの取り組み / 法人内研修・クラブ活動・職員交流
発達障がい児支援 / 乳児保育
幼保小連携 / 特別事業

新しくなった都島児童館

理事長研修報告 in 沖縄

比嘉正子地域貢献事業研修センター ひまわりネット / ゆんたく information

巻末特集—比嘉正子記念室～戦後の礎を築き～

社会福祉法人 都島友の会

戦後70年。 節目の年に――。



社会福祉法人都島友の会
理事長 渡久地 歌子

「子ども・子育て新制度」がスタートして、約半年が経とうとしています。一步踏み出したかのように思いますが、少々混乱しているようです。今までの保育園・幼稚園が残ったまま、そこに認定こども園が新たにつくられ、三様の施設ができてしまいました。法律的にも保育園の子どもは児童、幼稚園は幼児、幼保連携型認定こども園では園児と、子どもの名称が三つもあることになります。新制度への移行は大人同士の綱引きというか、いろいろ大変な作業でありました。煩雑なことも多く、申請書など膨大な書類の山、そのような中、都島友の会は新制度の幼保連携型認定こども園(3園)と保育所型保育(大阪5園・沖縄2園)の2本柱で出発しました。保護者の皆様には3月から4月にかけて、法人の成り立ち、新制度への移行についてご説明させて頂き、事務的な手続等にもご協力賜りました。

もちろん制度変更があるとう子どもたちは今迄と何ら変わることもなく、みんなよく遊びよく学び、子ども同士いたわり合い、譲り合い、時にはそれぞれ我も張つてと、本当に邪気のない、心なごむ有り様は以前と同じです。知・徳・体、皆さん本当にバランスよく成長されていると思います。

変化があると言えば、こちらの側でしょうか。午前、午後の過ごし方にも変化があり、職員間の話し合いも多くなり、幼児教育と保育、養護、法人の理念、基本指針・教育・保育目標等の確認や振り返りなど、様々な事をしっかりと共有できるようになりました。また私たちの働くこの場所は、子どもたちの生涯に渡る大切な人格形成の基礎を培っていく場である事を再認識し、そのことから法人の宝というべき数多くの資料を改めてまとめ直す良い機会ともなりました。

0才児保育から始まり、そこから小・中学校へいたる長い橋渡しともいうべき保育・幼児教育のまとめ、リスクマネージメントや危機管理、管理職としての事業計画、職員の手引き(心得、研修について、実践、報告、まとめ)などなど、多種多様な分野の法人の大切な資料や

知恵を、いま各園、各職員たちが、分かりやすく今後の世代にも引き継げるようにと、編纂し新たに作り直す作業に勤しんでいます。

さて振り返りといえば、今年には戦後70年の年でした。安倍首相の戦後70年談話をはじめ、日本の戦後を振り返る数多くのメディアの特集、論説がありました。戦後といえば、私も都島友の会の創設者、比嘉正子には社会福祉や幼児教育の担い手のみならず、その後半生には多くの人々にその姿を知らしめたもう一つの大きな活動があります。

比嘉正子は沖縄で生まれ首里バプテスト教会で洗礼を受け、17才で大阪バプテスト女子神学校に在籍。淀川区のミッド社会館に留学、卒業後、大正12年大阪市立北市民館の保母となり、昭和6年には都島幼稚園を設立しました。以降、幼児保育を中心とする社会福祉事業に邁進し、戦後は日本で初めての乳幼児保育を始めるなど、まさに戦前、戦中、戦後を社会福祉や幼児教育に一身を捧げ、波乱万丈の生涯を駆け抜けてきたのです。

一方、終戦後、戦争中の疎開地であった大阪鴻池新田(現在の東大阪市)で子どもたちの空腹や飢え、社会の混乱に立ち上るべく、地元の主婦たちとともに「米よこせ」の陳情を始めます。日本の戦後史に残る「主婦の会」、後の「関西主婦連合会」の誕生です。そして戦後の時代を、消費者運動、婦人運動、女性解放、女性教育へと活動の場を広げ、政府の各分野の諮問委員も数多くつとめ、晩年は行政改革に力を注ぎました。社会運動家としての比嘉正子の姿です。

社会福祉から児童教育、消費者・婦人運動・・・比嘉正子の幾多の顔に人々は戸惑うかもしれません。またその旺盛なバイタリテイの源はいったい何だと呆れる人もいるかもしれません。沖縄、バプテスト女子神学校、大阪市北市民館などでの出会いやそこで培われた思想や信念、さまざまに答えはあるでしょうが、昭和20年8月の終戦、焼け野原の中でお腹をすかし、さ迷う子どもたちを何とかしようと、まだ憲法も児童福祉法もない

認定こども園 成育児童センターの子どもたちと共に▶

混乱の只中であつて、今、手を差し延べなかつたらこの私たちは死ぬ、病気になる、教育が受けられない、目の前にある差し迫った現実を何とかしようと、法人の戦後の原点である「都島児童館」を設立、已むに已まれぬ使命感で飛び込んでいくその力こそが、比嘉正子のあらゆる活動の原動力、源だったと私は思います。

「都島児童館」、そこは、そこに行けば何か食べられる、習字、そろばん、絵、ピアノ、何でも習える、勉強も教えてくれる、まさに子どもたちの集える場所でした。幼児クラブ(短時間)・保育クラブ(長時間)・学童クラブ(放課後クラブ)・教育クラブ(習字・そろばん・絵・ピアノ等お稽古)、そして母の会、女性教育部等があり、子どもも大人もそこでさまざまな活動や経験を通して、数多くの事柄を学んで巣立っていきました。

花にはお日様 子どもに平和
強い子 良い子 三つ子の魂百まで
目を離すな 手を貸すな
温故知新

当時から変わらぬ法人の子育てのストーリーです。

法人の基本理念
社会福祉法人都島友の会は、多様な福祉サービスを提供できるように創意工夫し、利用者の個人の尊厳を保持しながら、子どもたちの心身ともに健やかな育成、個人が持っている能力に応じ、自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援することを基本理念とする。

平成27年3月迄に当法人を卒園していった子どもたちの人数

都島児童センター※	7,279名	昭和6年～
都島東保育園	1,172名	昭和51年～
児童発達支援センター 都島こども園	141名	昭和51年～
都島友洲保育園	1,404名	昭和58年～
都島桜宮保育園	687名	平成4年～
都島友洲乳児保育センター	340名	平成13年～
成育保育園	48名	平成22年～
沖縄 渡保育園	1,326名	昭和49年～
沖縄 松島保育園	676名	昭和57年～
合計	13,073名	が巣立っていきました。

※都島乳児保育センター、都島第二乳児保育センターを含む

平成27年4月 在園児

大阪・沖縄 (乳幼児)	1,157名	合計 1,437名 が現在利用しています。
放課後児童クラブ	90名	
家庭支援登録者数	80名	
園庭開放利用者	110名	

戦後、私たちの法人から子どもたちは大きくたくましく育っていきました。子どもたちはやがて成人となり、戦後の日本の社会を担っていきました。

私もが日本の社会福祉・教育の一大改革である今回の新制度に迷わず手を上げたのは、私たちの原点、都島児童館が現在の「子ども、子育て新制度」のまさに先駆けであり、この制度が私たちの原点へ帰帰する一大契機だと再認識したからです。法人の各施設がこれからは、いっそう地域のために貢献できるよう、地域の皆様にご利用しやすく子どもを安心して預けられる施設となれるよう、そして何より子どもたち自身が心から楽しく、自ら自身がすこやかに成長できる子どもの楽園であり続けることを願っています。またそのために職員一同、なおいっそう精励する覚悟です。

さてこの夏、私どもの運営する『比嘉正子地域貢献事業 業研修センター(ひまわりネット)』の5階に、上述した比嘉正子の婦人運動・消費者運動の歴史資料をまとめた「比嘉正子記念室」戦後の礎を築き」を開設しま

した。日本の消費者運動、婦人運動の歴史の一端をご覧いただけだと思います。また私たち法人の歩みや社会福祉関係は都島児童センター本部2階に、資料室を設置しております。興味のある方は是非お気軽にお立ち寄り下さい。

※比嘉正子地域貢献事業研修センター(ひまわりネット)は、創立者比嘉正子の意志を引き継ぎ、近年社会問題化している、貧困の連鎖で教育の機会が奪われる「子どもの貧困問題」等をはじめ、子どもたちの生命や育ちを守り支援していくプラットフォームとなるよう開設運営しています。理屈だけでなく行動あるのみで、ささやかでも前進するのが我々の役目と思っております。どうか子育て、介護などで悩んだら、迷わずお気軽にご相談ください。

◆比嘉正子地域貢献事業研修センター 大阪市都島区都島本通3-16-8



講演者と参加者が『ひとつ』になりました！



大阪大谷大学の就職説明会に参加。寸劇や映像をまじえたプレゼンテーションをしてきました。

特集

都島友の会
法人としての取り組み

大阪大谷大学にて5月20日、「就職説明会」に参加させて頂きました。対象は教育学部の3回生。未来の保育士さんです！『私立保育園の概要と現状』『保育士のやりがい』をテーマにした説明会に都島友の会の保育士5名が講師として参加しました。

リクルートへの取り組み

養成校訪問

認定こども園 成育児童センター
西田 直未

7月から8月にかけて各園の園長が採用要項を持って養成校を訪問し、学生の意識や就職状況等についてお話を伺いました。法人からは試験の内容や採用に対する考え方を話させていただき、配属先(園)の希望があればできるだけ希望に添うように考えていること、住宅手当の支給もあるので一人暮らしの職員も安心して働けることなど、処遇・条件等の質問にお答えしました。また、男性職員も増え各園で活躍していること、結婚し子育てをしながら仕事を続ける職員が大勢いることなど法人の現状をお知らせし、実際に園の様子を見ていただけるよう見学やボランティアを随時

受け付けていることもお伝えしました。「都島友の会の採用要項を待っている学生がいるんです」と席に着くなり嬉しいお話から始まることもありましたが、各校を訪問する中で実習や試験が終わらないと就職活動をする意欲が湧いてこないといった学生たちの意識、その一方で求人が増えて採用案内も年々早くなってきたりとの厳しい現状をお聞きしました。今後は就職への意識をいかに早くもってもらえるかが課題であり、養成校とのコミュニケーションの大切さや保育の現場で働きたいと思ってもらえる魅力的な職場づくりの重要性を改めて感じています。



「福祉の総合就職フェア2015 in OSAKA」に参加。

「福祉の総合就職フェア2015 in OSAKA」が平成27年7月18日(土)、19日(日)の2日間、大阪府立体育館で開催されました。2日間で約300事業所が参加する大規模な就職フェア!!都島友の会は18日(土)に、乳幼児施設、高齢者施設合同で参加しました。12時の開催のアナウンスから徐々に会場は学生たちで埋め尽くされ、気が付くと都島友の会のブースは満席となっていました。熱心に説明を聞く学生たちの姿に、将来の福祉職を担う方々の熱意を間近で感じると同時に、自分が就職した当時の気持ちを思い出し新鮮な気持ちで対応する事が出来ました。また、現在都島こども園の職員として保護者の方々と子育ての悩みや発達の相談、療育支援内容など一緒に考えさせていただいていますが、保育・療育・介護と幅広い分野で利用者の方に関わらせていただける事が友の会の魅力だと改めて感じる事ができました。

児童発達支援センター 都島こども園 舟田 弥永子

大阪大谷大学 卒業生として…

認定こども園 都島児童センター 錦城 栄旭

自分の後輩にあたる学生のみなさんに保育の現状や仕事を伝えること、そして「やっぱり保育士になりたい」と思ってもらえるにはどのように伝えればよいかはすごく難しく感じました。私が保育士となって、一人ではなく、子どもたちがいて、そして一緒に取り組んでいる仲間がいるのと同じように、学生のみなさんにも一緒に頑張っている仲間を大切にしてほしいと伝えさせてもらいました。そして今、私が保育士として子どもたちと過ごす

「楽しく・わかりやすく・簡潔に！」をモットーに
絵本の読み聞かせなど保育現場での実践やそれぞれの保育士の今までの経験談などを交えながら約1時間。
普段、大勢の0〜5歳児の子どもの前で話をすることには慣れていますが、やっぱり大人(大学生)が相手になると勝手が違います。
ドラえもんや映像、その年代に訴えるような音楽なども取り込んであの手の手を使って必死…。真剣さの中に笑い(な)っていたらどうか…の要素も入れながら伝える中で、学生さんたちのまっすぐでアツイ視線は眩しかったです。
説明会終了後…学生さんの生の声や感想文に「今後の進め方」を見直し、このような機会を与えて頂いた大阪府社会福祉協議会の方々に感謝しつつ…また改めてこの仕事の「素晴らしさ」と「奥深さ」を噛みしめることができました。

学生の感想



- 子どもが好き、子どもの笑顔が見たいという気持ちが一番必要だと感じた
- 男性でも活躍できる保育園(保育)があることを知り頑張ろうと思った
- 説明会に参加して保育士になりたいという気持ちが強くなった
- 公立と私立の違い、やりがい・給与の面など細かい部分まで知ることができた
- 卒業生の生の声を聞けて頑張ろうと思った
- ドラえもんがかっこよかった

認定こども園 都島児童センター 玉置 友香子

「毎日学生とすきに会った仲間、そして今の現場の人たちがいるからだと思います。卒業生である私がガイダンスに行かせていただいたことで、学生に伝えることだけでなく、自分自身もいろんな支えがあつて頑張れていることを改めて感じました。」

04 バレー部

都島友の会には職員の余暇活動としてクラブがいくつかあり、その中の一つにバレーボール部があります。平成27年度、部員は25名。主に桜宮中学校をお借りして月2回金曜日に練習し、試合前の3ヶ月程は地域のママさんバレーボールクラブの胸もお借りします。

さて、大阪府下の社会福祉施設の多くが入会している大阪民間社会福祉事業従事者共済会主催の大きなバレーボール大会が今年も8月29日に開催されます。2年前に悲願の初優勝を達成し、昨年にも優勝と2連覇中！この原稿を書いている今は、目指せ！3連覇！！と、強豪チームとの戦いに向けて練習に励んでいるところです。

職員は日中も子どもたちと一緒に汗を流し、就業後はホッとゆくりしたいところを、バレー好きが集まって夕方にまたたつぷりと汗を流しています。練習が始まるまでは少々お疲れ気味でも身体を動かしている最中は皆きらきらと輝いた表情でボールを追っています。チームプレーで絆が深まり、大きな声を出してストレス発散。好きなことができるって心の健康のためにも大切ですね。

このゆんたくを読んでいたって心は健康のためには結果が出ています。きつとV3を手に入れてみんな最高に輝いているんですよ。

PS: 残念ながら3連覇ならず。今年は準優勝でした。



都島友の会
法人としての取り組み

特集

法人内研修・クラブ活動・職員交流



職員交流会レクリエーション

職員紹介や園の自慢などを記載しています。職員のおすすめのお店や旅行先を紹介することもあり、その情報を元に他の職員が出掛けることもあります。全職員が集まることは難しいですが、会の目的を大切にしながら楽しく親睦を深めている比周会です。

03 フットサル部



もともとは、数名の職員が友だちと一緒に趣味程度で行っていたフットサル。ある時、そんな話を理事長先生といると、「もっとみんなを巻き込みなさい！」と熱いエールを頂き、法人内研修や忘年会といった多くの職員が集まる場でも宣伝して頂いたことがきっかけとなり、友の会フットサル部として動き出しました。現在の活動状況は、年に2回の小さな大会への出場。部員のほとんどが初心者なので、『楽しく・仲良く・怪我もなく！』をモットーに、勝ち負けよりも自分の身体を大切にしながら(笑)、そして何より汗をかいた後の泡泡(!?)を楽しみに試合に臨んでいます。毎回、試合の後には、「もっと練習したいなー」と声は拳がるものなかなか実現には至らず……。ということで、今回のこの投稿を奮奮材料にして、秋からは定期的に練習を行っていきたくと思います！

01 都島友の会 法人内研修

都島友の会では、「比嘉正子地域貢献事業研修センター ひまわりネット」を通じてさまざまな研修会が行われています。昨年度は、新人研修をはじめ、保健衛生研修、障がい児研修、絵画ワークショップなどが開かれました。

園内研修では、法人各園が事前にそれぞれの研究テーマを決め皆の前で発表、他園の参加者と質疑応答の機会を持つことで、職員相互の交流を図るとともに、研究テーマの理解をいっそう深め、新しい課題を見つげながら保育・療育の質の向上を図っています。



▲法人で手作りしたマニュアル各種

「研究奨励賞」を受賞

日本保育協会主催第9回保育所保育実践研究・報告で、「保育の質を高めるリスクマネジメント〜ヒヤリハットを共有し事故を回避する〜」(都島友湖乳児保育センター江藤治世)が研究奨励賞(課題研究部門)を受賞しました。これはリスクマネジメント委員会が法人の保育園1年間のヒヤリハットのデータ(3016件)を集約したもので、この受賞は事故防止への意識を高めました。

新人職員研修

法人で配属が決まり、初めての研修は「都島友の会 職員ハンドブック」の読み合わせをします。学生時代に学んだ児童憲章を再確認し、法人がめざしている保育・療育について学びます。保育士としての責任や専門性とともに『社会人としてどうあるべきか』も書かれていますので、新人職員だけでなく全職員で読み合わせ、気持ちを新たに保育・療育に臨んでいます。

また、施設ごとに看護師(8名在籍)による保健衛生新人研修を行います。内容は怪我の応急処置、発熱時の対応、アレルギー(アナフィラキシー)、SIDS(乳幼児突然死症候群)、予防接種についてなどです。新人職員からは「SIDSでの死亡する子どもの人数の多さに驚いた。呼吸の確認、仰向けにするなど事故を招かないように気を付けたい(0歳児担当)」「アレルギーや熱性けいれんを持つ子が多く、症状を見分けることや、対処に気を付けなければならぬと感じた(4歳児担当)」「体調の変化がよくあり、その時の対応を詳しく知れた。外見は元気でも体はしんどいことに気付けることが大切だと感じた(1歳児担当)」などの感想がありました。

担当するクラスによって視点が違い、『今、自分の保育に何が必要か』というのを理解しているのではないかと思えます。これからも、覚えることがたくさんある新人職員です。様々なことに興味、関心、疑問を持ち一つでも多くのことを学び、子どもにも保護者にも信頼される保育士になつてほしいと思えます。



1年目の職員が乳児保育研修で学んだ「子どもとの関わり」の場面
オムツ交換の時に大人が寝かしたり起こすのではなく指を差し出すとその指を子どもが握り、自力で寝転んだり起き上がることで腹筋や背筋の力をつけることができる。研修後、子どもの様子を見ながら、すぐに実践している。

02 和太鼓クラブ

仕事とプライベートの充実をめざして、楽しく・ストレス発散！をと友の会では「和太鼓クラブ」を今年から発足しました。法人職員に呼びかけ、「やってみたくあったあ〜」と経験者・未経験者15名ほど集まりました。経験者を中心に、構えや、リズム打ちなど、基礎の練習中。月に2回の練習ですが、かなり腕や腰、足に力が入る為、「ダイエツト効果あり！かも〜」とみんな秘かに期待を持ってわいわい！楽しく盛り上がっています。今後は曲にも挑戦していきますので、いずればどこかでお披露目ができるかな？と、頑張っています！いろんな形で、和太鼓を表現できるチームになりたいと思っておりますのでご期待!!(笑)



05 ひまわり会

都島友の会には『比周会』という職員同士の交流を目的とした会があります。全職員で集まる機会が少ない為、気軽に集まり親睦をもつと深めたいという意見があり発足しました。比周会は、「ひまわりかい」と読み、初代理事長、比嘉周子先生の名前から「比」と「周」の字を頂き名づけました。ひまわりの花のように明るさをもたらし、太陽に向かって力強く躍進するという意味もあります。

親睦会では年に2度食事会、レクリエーションを行っています。食事会では毎回200名程が集まり、話が盛り上がる中笑い声に包まれ楽しい時間を過ごしています。また食事時間の合間にゲームや余興を行っています。ゲームは白熱し、毎回汗びっしょりになりながら楽しんでいます。レクリエーションは職員にアンケートをとり、やりたいことを取り入れ、ヨガやクッキング等を行っています。他園の職員と交流をもつ中でワイワイと楽しい時間を過ごしています。

また各園の情報交換として年に4回新聞を発行し、職員紹介や園の自慢などを記載しています。職員のおすすめの店や旅行先を紹介することもあり、その情報を元に他の職員が出掛けることもあります。全職員が集まることは難しいですが、会の目的を大切にしながら楽しく親睦を深めている比周会です。



夏のビールパーティー

困った時、分からない時、やさしくきちんと伝えられる、深く正しく理解できる。

乳児保育のガイドブック、 「乳児保育～子どもの健やかな育ち～」いよいよ完成です。



いまから半世紀も前、高度成長によって女性の社会進出が進み、保育に対する考え方もそれまでに「託児」から社会性を持った環境の中で心身ともに健やかに子どもたちを育て「保育」へと大きく転換しようとする中で、私たち都島友の会は日本でも初めて乳児保育の専門施設、都島乳児保育センターを開設しました。以来、法人では先人たちの知恵や工夫に学びながら乳児保育のエキスパートとしてさまざまなノウハウを蓄積してきました。

一日の大半を保育園で過ごす子どもたちが、安心安全に、のびのびと生活ができるように。子どもたちの調和のある発達を助け、生涯にわたる人間形成の大切な基礎を培う場所になるように。これまで先輩たちが工夫し研鑽してきた優れた保育法やノウハウを分かりやすく誰にでも理解できる一冊のガイドブックにまとめようと作成を開始したのは今から2年前。制作は試行錯誤しながら始まりました。

毎日の保育について、授乳、食事、睡眠、排泄など、それぞれの場面での職員の関わりや保育の進め方をすべて網羅しようと思いついていく中で、日々の保育の中で行っていることの二つひとつ、ほんとに細かなところまでを拾い上げることの大変さ、そしてそれらをいかに簡潔にかつ分かりやすくまとめるのか、というところが大変で、写真の撮り方、文章の校正、見やすく図式化するなど、とても苦労しました。しかしそれをあらためて写真化、文章化することで、作成に参加した職員一人ひとりがいつそう深く保育の進め方、関わりあひ方を理解できたように思います。また都島乳児保育センターと都島第二乳児保育センターのちよっとした違いや互いの良い所を再確認する機会となり、これからはますます自信を持って保育していこうと職員一同、張り切っています。ほぼ完成に近づいた「乳児保育」子どもの健やかな育ち、さらにブラッシュアップした後、皆さんにもご披露できると思います。

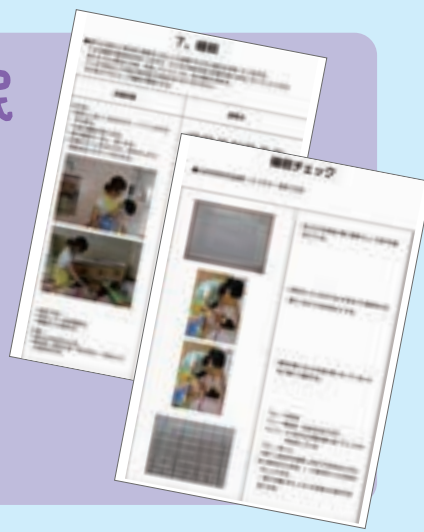
食事

離乳食から始まる食事。一人ひとりの発達に応じて、口の動かし方、特に嘔吐ことや嚥下すること、そして便の状態を見て、保護者と話をしながら無理のないように、中期食→後期食→幼児食へと進めていきます。成長とともにスプーンやフォークを使ってこぼしながら自分で食べるようになります。2歳児になると個人の成長に合わせて箸への移行も進めていきます。



睡眠

安心して眠れるよう抱っこしたり優しくトントンしています。0歳児は5分、1、2歳児は10分毎に姿勢・顔色・呼吸など子どもたちの様子を確認して「睡眠チェック表」に記録し乳幼児突然死症候群（SIDS）の予防もしています。



都島友の会 法人としての取り組み

法人における 発達障がい児支援 について

児童発達支援センター 都島こども園 櫻井 雅子



都島友の会には、発達に障がいをもつ子どもたちを通う児童発達支援センター都島こども園があります。子どもたちは専門的な療育知識を持った職員に囲まれて週5〜6日単独で通っています。言葉がまだ出てこない子どもたちも言葉に頼らないコミュニケーション方法を獲得することで、いきいきと自ら人に関わりに行くようになる姿が多く見られます。今日では障がい児に対する療法も各方面で研究され、療育の内容もさまざまに進化してきました。最近の研究では子どもからの発信はあるがそれが弱いので気付かれず、結果周りからの反応が返ってこず、そのうち自分から発信することをあきらめてしまうという報告を聞きます。低年齢のうちに丁寧に関わってあげることがこれからの一生にとっても大きな影響を与えるのです。

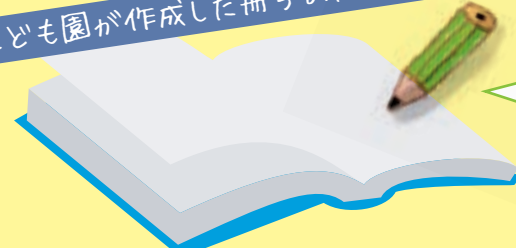
都島こども園ではこうした療育研究の成果も踏まえ、良いものは積極的に現場で取り入れ実践し、そこから多くの優れたノウハウを蓄積しています。法人ではこうした都島こども園の持つさまざまなノウハウを法人全体で共有するため、定期的に障がい児研修会を開いています。また平成24年からは保育所等訪問支援事業として、都島こども園の職員が法人の各園に直接出向いて現場で子どもたちの様子を観察し、担任の先生へアドバイスをしたり、各園の担任と都島こども園の職員と一緒に考える機会を作っています。

今後各園との連携をさらに強め、法人全体の情報・知識の共有化をいっそう図ることを目的に、都島こども園が実際に取り組んでいる療育内容を抜粋した冊子を作りました。これらを参考に障がいを持つ子どもたちの育ちを支援していければと考えています。また都島こども園の職員が各園を巡回できる「保育所巡回支援」システムを設立し、障がいを持つ子どもたちが必要とする支援と一緒に考え、法人全体として障がいを持つ子どもたちに支援が届くような強固なネットワークを作り上げていきたいと考えています。

児童の姿	具体的な支援	結果
立ち便器を利用する時に便器から適切な位置に立ってない	足を置く場所が分かりやすい様に、足形を床に描いた	適切な距離に立つことで、便器からおしっこがこぼれることが減った

児童の姿	具体的な支援	結果
あそびを何度も繰り返したくて、終わる時には怒ってしまう	遊べる回数をシールで示し、1回終わるごとにシールをはがしていく。全てなくなった時に「無いね。おしまい」とおわりを伝えた	シールで回数を確認することで納得して終わることが出来た

こども園が作成した冊子の内容例



参考にして下さいね

育児の楽しさ、悩み、どんな話でも聞かせてください。 子育てのお手伝いをさせていただきます！

都島友の会では、地域貢献の一つとして、子育て中の方々に向けて、さまざまな事業を行っています。親子で楽しく過ごせる場や機会の提供、子育て中の親子の仲間づくりのサポート、育児情報の提供など、地域の皆さんが子育てを楽しめるように、不安が少しでも和らぐように、と考えています。どなたでも、ぜひお気軽にご利用ください。

地域子育て支援拠点事業

のびのび

平成 10 年度～



『ゆつくり ゆつたり みんなで子育て たのしく子育て』の気持ちで、みなさんをお迎えしています。今年度は「いま必要な育児情報！いま欲しい育児のコツ！」の情報を提供を意識して取り組み、新たな試みを多く取り入れ、みなさんの育児のお手伝いをさせていただいています。『NMO(のびのびママ応援)』と題し、育児のサポート情報を作成しお伝えしたり、『えほんひろば』の日は、絵本だけの空間を作り、親子で楽しく絵本に向き合える時間をつくってみたい、ふた「この会」は「はぐ」の日を設け、多胎児・としごの方が情報交換できる場を設け、子育ての大変さだけでなく楽しさも分かち合えるよう、サポートしています。



病後児ルーム

ひまわり

平成 17 年度～



子どもがしんどくてかわいそうという思いと、仕事を休まなければならないという思い。上手に病後児ルームを利用していただければと思います。

Q. どんな時に利用できるの？
A. ほとんど治ったけどもう少しゆっくりさせたい。熱が下がったところなので、集団生活はしんどいかな。でも仕事は休めない…
Q. どのように過ごしているの？
A. 病気の回復期という点で『安静』に重点をおき、少人数の子どもをゆつたりと落ち着いた環境で保育しています。(1日定員4名まで)

一時預かり事業

すくすく組

平成 4 年度～



「仕事をしたい、探したい」「勉強をしたい」「介護や看病に行きたい」「通院したい」「出産時に利用したい」「子どもの発達を促したい」「ちょっと体を休めたい」など利用される方の理由はさまざま、今年度もたくさんの方に利用していただいています。毎日が新年度のようにぎやかさではありませんが、慣れることに増えていく子どもの笑顔、そして保護者の方のいきいきとされていく姿に私たちも嬉しく思っています。たくさんの方の利用希望の声にお応えできるよう、受け入れ方に工夫を凝らし、安心して預けていただけるよう、そして安全に受け入れられるよう日々職員間で協力しあっています。

みんなのサロン

ゆいまーる

平成 17 年度～

都島第二乳児保育センター独自のサロンとして、地域の方に利用していただいています。今年度はイベントにも工夫を凝らし、秋の収穫を楽しめるよう『芋の苗植え』にチャレンジしたり、イベント以外の日も季節の制作を楽しめる時間を設けたり、保育園児との交流の時間を設けたりしています。子どもたち同士、保護者の方同士の関わりも深まり、時には育児の悩みを聞きあったり、プレ保育や入園先の情報交換をしたり、おでかけ情報の楽しい話が咲いたり、みなさん楽しくゆつたりと過ごされています。



都島友の会 法人としての取り組み



幼保小連携のために

～『育ちと学び』～

認定こども園 友刈児童センター 吉本 希

大阪市発行の『就学前教育カリキュラム』にもありますように、小学校教育への円滑な接続として都島友の会法人内5園でも地域の小学校との交流活動を行っています。毎年6月に開催される『小学校就学前にかかる関係者連絡会』では田畑区長をはじめ区役所関係者、都島区内の全小学校及び保育園・幼稚園・認定こども園の代表者の方々が集まり新1年生の学業・生活の様子についてや、次年度の就学前児童の状況について意見の交換が行われます。また各園の交流活動の中でも5歳児が地域の小学校を訪問したり、小学校からは『まち探検』として小学生の子どもたちが園へ来ます。(園児から小学生のお兄さんお姉さんへ「給食はおいしいですか?」「100点を取ったことありますか?」「勉強はがんばっていますか?」などの質問をしたり…)就学前の2月末には小学校の栄養教諭の方が来られて保護者の方向けに学校給食に関する講習会を設けている園もあります。こういった交流の中で小学校生活へのイメージや憧れを持つことができ、また、子どもたちも保護者の方にも安心感を持って小学校へスムーズな接続を図っていけると考えています。また、都島友の会の5歳児として『就学するまでに身に付けておきたい子どもの姿とは』というテーマを基に、法人内5歳児担任が会議を重ねて

事前にいただいた意見等一覧

	今年度の就学にかかる連携で、課題に感じたこと・工夫されたこと	その他意見交換したい内容
1	授業や活動の相互参観の必要性	今、重点的に取り組んでいること
2	校外の保育園(所)・幼稚園とはつながりがなく、就学(希望)専攻が把握できていない。その時の希望専攻専攻で対応したいので、園と連携し、希望専攻の専攻専攻(専攻)専攻から、この小学校に転入してくる子どもを多く受けたい。	-
3	小学校が選択制となったため、思いどおりの専攻専攻を専攻する必要がある	専攻の専攻・専攻

Check List

友刈児童センターが使用している5歳児チェックリスト



Good!



きました。各園で行なっている年長児の特色ある活動や就学に向けてどのような子どもたちを育てたいかなどを項目化し、「知育」「徳育」「体育」「食育」の4つのカテゴリーに分類。保育・教育内容の活動の中にもたくさんさんのねらいがあり、例えば、文字活動では鉛筆の持ち方、正しい書き順を伝えると同時に、姿勢や決められた時間、静かにイスに座って人の話を聞く、ということも身に付くように心がけます。徳育面でも、大人の指示がなくても『自ら考え』『周りを見て行動できる』『危険な場所には自ら近付かない』など、子どもたちの考える力、生きる力、生きていく上で必要な力を身に付けられるような保育・教育をこれからも実践していきたいと思っています。



「ひだまり食堂」やっています！

ひだまりに寄れば温かいよ！
保育園の給食室の栄養士が作る「お昼ごはん」
安心安全な食材で栄養バランスのいい、野菜
たっぷりの「お昼ごはん」です。
みんなが寄ってくる。みんなと話しながら食
べる。

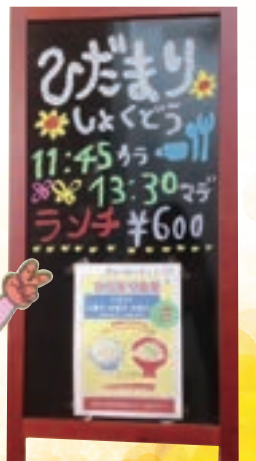
在宅子育て家庭のお母さんと子ども達、地域の方々がお客さん
です。

子育て中のお母さん同士は何気ない会話が弾み、時に「うちの
子野菜食べないの！」「うちも一緒やわ！」と気持ちを共有しあっ
ている…でもみんなと食べると嫌いな野菜もパクパク食べている
子どもたち。一緒に楽しく食べる効果ですね。
そんなふうに「ただ食べる」ことを「楽し
く食べる」ことにできれば、お腹だけじゃ
なく心もいっぱいになりそうです。

そして「ごちそうさま」「おいしかっ
た！」の声と笑顔はなによりうれしいも
のです。



●週3回
(火・水・木曜日11時45分～13時半)
●1食600円也



HIMAWARI.NET 連載こらむ

ネットのきもち 7

我が家の愛猫は今年十六歳。人間の年齢に換算すると八〇歳になるらしい。
毎朝彼の鳴き声で目覚め、一日が始まる。そして、彼の鳴き声に出迎えら
れて一日の勤めを終える。かつての精悍さには欠けるものの、今はゆったり
と穏やかな日々である。
彼にまつわる逸話も数多くあり、子どもやマコたちに負けないほどのたく
さんの思い出を作ってくれたのも、家族として生きてきた証である。そろ
そろお迎えのときが近づいているな、と思う瞬間が増えてきているが、なか
なか受け入れられずにいる。

六月末、比嘉正子地域貢献事業研修センター主催の「介護職員初任者研
修」が終了した。四月に始まり、三〇時間にわたる講義からは、お世話役で
ありながらたくさんの方の言葉を学ばせてもらった。
永く保育の世界にいたので、子どもたちの日々の成長は大きな喜びであ
り、希望でもあった。「寝返りをした」「はいはいをした」「歩いた」昨日できな
かったことが今日できるようになったという喜び…しかし、介護の世界では
違っていた。

昨日までできていたことが今日はできなくなるということ。本人はもとよ
り家族の方にとってもなかなか受け止められない現実がそこにある。
介護者は、「できないこと」よりも、「できること」に目をむけようとする。プラ
イドを傷つけないようにさりげなく援助して「できる」という思いを取り戻
してもらったのが、介護に携わる者の役割だと話されていた。

「今の私たちの幸せはお年寄りたちがつくってくれたものです。その人た
ちを心を込めてお世話するのは当たり前のことです」そんな若者が一人でも
多く育ってくれることをこころから願っている。

最近目にとまったコラム「ねこに学ぶ人生の楽しみ方」から

- その1 どんな時もごはんはおいしく食べること。
- その2 なにかあったらとりあえず寝て忘れること。
- その3 遊ぶときは本気で遊ぶこと
- その4 好奇心を忘れないこと。
- その5 つねに身だしなみはきちんとしていること。
- その6 かたまったら時々たのびてみること。

まだまだ我が家では猫さまさま…なり。

(地域貢献支援員 村上 明子)

大阪府中央区民ホールで開催された

「食育研修会」で事例発表を行いました。



大阪市では大阪府食育推進計画を推進する
ため、食育に関わる施設や団体で、連携・協働
のネットワークを構築・
強化しています。その参
加団体の食育活動につい
て事例報告を行う「食育
研修会」が7月9日に大
阪市中央区民ホールで開
催され、都島友の会から
は「離乳食試食会」につ
いて事例報告をしまし
た。
離乳食試食会は保護
者を対象に、毎年各施設で開催し、離乳食の必
要性・進め方・注意点・病気の時の対応を中
心に説明し、試食をしてもらいます。
また、試食会だけではなく、「摂食体験」を
してもらいます。これは参加者が二人一組にな
り、お互いにスプーンで食べさせたり、お茶を
飲ませ合います。これにより、どうすれば安全
に食事援助ができるかがわかります。
この体験は、職員も法人内研修でも経験し、
保育の現場でも活かされる他、職員から職員へ
と伝えることで職員のスキルアップにもつながっ
ています。

本事務局 竹中 友樹

編集後記

久々にふと相田みつを氏の詩集を手
に取りました。
今更ながら心に染み渡り、背中を押
され、癒されました。今夏、甲子園球
児の姿や世界水泳のアスリートたちを
テレビで見、詩集と重ね合わせるとま
たまた感動。
私も『一生感動一生勉強』『いまか
らここから』。

認定こども園 友測児童センター
吉本 希



都島友の会は、 「定款」という基本規則に よって運営されています。



私たちが勤務する都島友の会は社会福祉法人です。社会福祉法人の事
業は定款(ていかん)という基本規則に基づいて運営されています。いわ
ば定款は都島友の会の憲法ともいべきものです。

当法人の定款は全部で36カ条からなっており、事業内容・運営組織のこ
と、資産・会計のことなど重要なことが定められています。

当法人には、役員として理事11名が置かれており、その代表が渡久地
理事長です。理事全員で理事会を開催し、法人の事業計画や予算決算な
ど法人の意思を決定するとともに、執行にあたっています。理事長は、日
常の業務として理事会が定めるものについて専断をしています。また役員
である2名の監事は、法人の業務執行状況・財務状況を監査しています。
また当法人には、法人の意思決定にあたりご意見をいただく機関として、
評議員会があり、社会福祉事業に造詣がある方や学識経験者等23名で構
成されています。

理事、監事、評議員には任期があり、それぞれ2年となっています。
理事会や評議員会は、予算や決算の審議の他、法人運営の重要な事項に
ついて審議いただくため、年数回程度開催されますが、平成27年8月には、
任期満了となった理事・監事・評議員選任のための理事会及び評議員会
が開催されました。

次期役員として全員が再任され、平成27年8月10日からの新たな任期
がスタートしたところです。

なお現在、国において社会福祉法人制度改革が進められており、社会
福祉法人の経営組織のガバナンス強化のため、「社会福祉法等の一部を改
正する法律」が、平成29年4月1日に施行されます。この法律により新
たに役員の定数・任期・資格・選任方法、理事会及び評議員会の権限等
が定められ、当法人においても平成28年度中に、定款変更や役員選任方
法についての事務を進めていきます。

本事務局 局長 寄瀬 博光

今号の表紙



- 1 児童発達支援センター 都島こども園
- 2 都島児童館
- 3 都島桜宮保育園
- 4 都島児童センター
- 5 友測児童センター

比嘉正子に関する資料が所狭しと並べられています



日本の消費者・婦人運動の パイオニアとしての比嘉正子を紹介

比嘉正子地域貢献事業研修センターの5階に
「比嘉正子記念室」がオープンしました。



比嘉正子が生きた時代に想いを馳せて...



明るい室内には団らんスペースも

法人の創設者比嘉正子は、昭和6年、大阪市立北市民館の館長、志賀志那人氏の「都島へ行って幼稚園をつくらなにか」の一言から、法人の原点である青空幼稚園を設立します。そして戦前、戦中、戦後と、私たち法人とともに、乳幼児や障がい児、さらには地域や高齢者支援と社会福祉事業に一身を捧げていきます。

一方、比嘉正子の活動にはもう一つの顔があります。終戦、戦後の混乱期の中から日本の消費者運動の礎を築き、戦後の時代を消費者運動や婦人運動のパイオニアとして波乱万丈の生涯を駆け抜けた姿です。

比嘉は戦争中の疎開地であった大阪鴻池新田（現在の東大阪市）で終戦を迎えます。敗戦による社会の混乱、食糧危機、子どもたちは空腹に泣き、闇市、配給のコメは滞り、なかには缶詰一個で貞操を売った女性たちがいた時代。

「世の中は変わった。わたらがものを言える時代です。わたらのようにヌカみその苦勞をしている者が人様の苦勞も分かり、先頭に立つて運動しなければ食糧危機は突破できません」と提案、地元の主婦たちとともに「米よこせ」の陳情を始めます。日本の消費者運動の始まりとなる「主婦の会」の始まりです。以降、関西主婦連合会の結成、物価値上げ反対運動、主婦の商品学校と、日本の戦後史に残る消費者運動を展開、晩年には行財政改革、政府の諮問委員を務めるなど、教育・福祉・女性問題、さらにはエネルギーや環境問題など、幅広い分野に活動の場を広げていきます。

今年8月に開設した「比嘉正子記念室」

では、こうした比嘉正子の姿を時代を追って紹介。福祉事業とともに、つねに生活者としての視点を通して、困っている人、弱者に対して支援を続けた比嘉正子の生涯。その一端を、当時の貴重な文献や資料、生前、NHKに出演した比嘉正子のVTRとともにご覧いただけます。ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。

比嘉正子地域貢献事業研修センター5F
「比嘉正子記念室」入館無料
〒534・0021 大阪市都島区都島
本通3・16・8

※ご来館をご希望される方は事前に「比嘉正子地域貢献事業研修センターひまわりネット」(電話：06・6925・1304)までご連絡ください。

